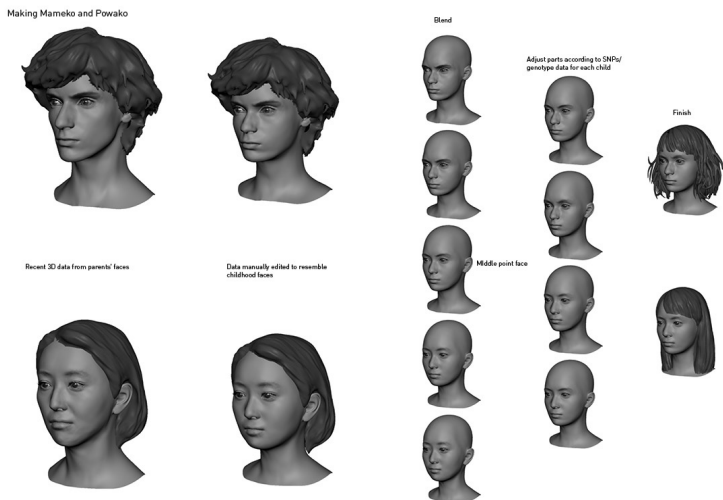


Ai Hasegawa “(IM)POSSIBLE BABY, CASE 01: ASAKO & MORIGA” (2015)



「実在する同性カップルの一部の遺伝情報から出来る子供の姿、性格等を予測し「家族写真」を制作した。現在ではまだ「不可能」な子供だが、遺伝子データ上での子供の推測ならば同性間でも出来る。ウェブの簡易版シミュレーター（β版）では、カップルの23andmeの遺伝データをアップロードすると、ランダムに出来る組み合わせの子供のシミュレーションが病気のなり易さや外見、性格に関する情報等がテキストで出てくる。

2004年の二母性マウス「かぐや」の誕生から10年以上経った2015年、女性から精子を、男性から卵子をつくれるのではないかと予想される内容のiPS細胞関連の研究論文が発表された。もはや同性間での子供の誕生が夢物語では無くならんとしている。しかし技術的には可能でも倫理的に許されるのか、という議論を通過しなければ実現は難しい。一体誰がどの様に、その是非を決定するのだろうか？一部の医者や科学者か、それとも私達にその自由はあるのか。このプロジェクトは生命倫理と科学技術に対する決定を多くの人に解放する装置として、アートはどの様に関ることが出来るのか模索する試みでもある。

この子供達の「存在」に対してあなたは何を思うのだろうか？その議論の行方により、今は「impossible baby」だが、近い未来「im possible baby」になるかもしれない。」

詳細は<https://aihasegawa.info/impossible-baby-case-01-asako-moriga>をご参照ください。

Ai Hasegawa アーティスト、デザイナー。生物学的課題や科学技術の進歩をモチーフに、現代社会に潜む諸問題を掘り出す作品を発表している。2012年英国Royal College of Art, Design InteractionsにてMA取得。2014年秋から2016年夏までMIT Media Labにて准研究員兼大学院生。2017年から東京大学大学院特任研究員（JST ERATO川原万有情報網プロジェクト）。本作、「(不)可能な子供、01：朝子とモリガの場合」で第19回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞受賞。国内外で展示多数。主な展示：森美術館:六本木クロッシング2016 My Body, Your Voice展、上海當代藝術館(MoCA) MIND TEMPLE展、スウェーデン国立デザイン美術館:Domestic Future展、台北デジタルアートセンター：Imaginary Body Boundary /想像的身體邊界展、アイルランド Science Gallery :Grow your Own...展 等。 <https://aihasegawa.info>

(表紙デザイン編集：岩崎秀雄)